

「愛知県下における常位胎盤早期剥離症例の
管理実態と母児の予後に関する調査」についてのご案内

【研究の意義、目的、方法】常位胎盤早期剥離（以下早剥といいます）は母体から胎児へ酸素・栄養を供給する胎盤が、原因不明に突然子宮からはがれてしまうことで、胎児へ酸素供給が不足してしまう疾患です。このために、重症化すると児に脳性麻痺などの後遺症をおこしたり、母体には出血から DIC といって血が止まりにくくなる状態を惹き起して生命に危険が及んだりすることが知られています。我が国では、脳性麻痺の原因としても母体死亡の原因としても早剥が問題となっていますが、どうした症例でこのような重篤化がおきるのかまだくわしいことはわかっていません。

本研究では、早剥をどのように管理したら母児共に予後を改善できるかを目的としています。そのために、愛知県下の分娩を扱っている施設にアンケート調査に協力いただいて、愛知県ではどのような管理がされているかを調査し、また 2012 年に発症した早剥症例の詳細を解析し、母体や児の予後が悪かった症例と良かった症例でどのような違いがあるのかを明らかにしていく予定です。

【研究機関名】名古屋大学医学部附属病院 産婦人科

【個人情報保護に関する配慮】診療録の閲覧は個人情報を伴いますが、情報収集項目に個人情報は含まれません。情報の提供を受ける際には患者氏名、住所などの個人を特定しうる情報の提供はうけておりません。また、愛知県周産期医療情報システム及びこのホームページにおいて研究について公開し、問い合わせ等に応じて、患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにします。

また、本研究は当院倫理委員会において承認された上で行っております。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

研究施設責任者：名古屋大学医学部附属病院 産婦人科 小谷 友美

〒 466-8550

名古屋市昭和区鶴舞町 6 5 名古屋大学医学部産科婦人科医局

TEL：052-744-2261

FAX：052-744-2268

苦情の受付先：名古屋大学医学部附属病院 総務課 TEL：052-744-1901